

2011年10月号

平和憲法を守ろう!

9 ひらつか



9条の会 ニュース

文責：事務局長 司法書士 大谷 潔 TEL0463-24-0702/FAX 24-0712

連絡先：〒254-0811 平塚市八重咲町2番8号エクセルビル3階 平塚松風司法書士事務所

Email: matsukaze@mb.scn-net.ne.jp

ホームページ：http://www.geocities.jp/hirakujojp/



塔の隣にある洋館は、日本海軍火薬製造(株)の建物で空襲では焼失せず、戦後は横浜ゴムの所有となり、平塚市に寄贈された。



平塚市内の戦争の跡めぐり(1)
八幡山公園にある平和の塔は、空襲による犠牲者の追悼と恒久平和を祈念

野田内閣と九条

★前原政調会長は、米国で講演した際に、武器輸出三原則の緩和とPKO派遣時の武器使用基準の緩和を主張した。日米共同開発した武器(ミサイル防衛システム等)を第三国に輸出できるように、武器輸出三原則を緩めようという話である。

★米国の要望により、昨年から浮上していた話で、一旦菅内閣ではお蔵入りになっていたが、浮上してきた。これを実現すれば、米国の軍需産業が喜ぶのみならず、日本の防衛産業も輸出による利益を上げることができるようになり、「戦争が起こればもうかる」という期待が国内に蔓延してくるであろう。

★PKOは、紛争地域の南スーダンへの派遣が検討されているところ、他国部隊が攻撃を受けた際に、日本の自衛隊も武器を使用できるようにしようというのが、武器使用基準の緩和である。緩和を認めれば、九条一項で禁じられている「武力の行使」に該当するので、決して認めてはならない。

★このように、九条を明文改憲するのではなく、なし崩し的な解釈変更をもくろんでいる。今後の成り行きを見守って、必要に応じて反対運動を起こすので、ご協力を願いたい。

第9回「平和を語りつぐ」報告

今年も、第9回の「平和を語り継ぐ」を8月6日(土) 午前10時～16時、八幡山洋館(旧横浜ゴム記念館)でおこなった。延べ人数は30名。小学生の子供から、若者、高齢者の方々と年齢層が幅広く集まっていた。4名の語りの人が一人約1時間の持ち時間で、最初は語りがあり、2～3名の質疑応答があった。

◆ 「シベリア抑留の体験」(高橋源太郎氏)

シベリア抑留者は60万人。極寒、飢餓、重労働で約6万人が死亡。本人はシベリアでなく樺太に抑留。待遇は悪くはなかった。むしろ、日本軍の軍隊内の非人間性暴力が日常的に行われ、上司がロシア兵にとりいり良い待遇を受けていることに腹が立ったと感想を述べていた。

◆ 「内戦から平和へ～ドブロブニクから平塚」(三代沢史子氏)

クロアチア人とセルビア人は平和に暮らしていた。民族間の差別や不満が、民族間の戦争となった。昨日まで、楽しく話し合っていた仲間が、次の日に殺し合う。そして、恨みが恨みを呼び果てしない内紛へ。戦争の悲惨を訴えていた。



◆ 「沖縄の怒りとともに」(上原成信氏)

戦争になったので村人ががまに逃げている。そこへ日本兵が入ってきて出て行けという。鉄砲玉の嵐の中を逃げ回り、北部のジャングルに逃げる。過酷な沖縄戦の状況を話された。

◆ 「広島爆心中島本町に生まれて」(北宏一郎氏)

北氏は爆心地の中島本町に生まれ、原爆投下の日には幸いにも疎開して助かった。投下後に中島本町に来たが、何もなくなっていた。近所の人々の姿、家もなくなった。未だに、骨が出てくる。「ここが爆心地、現在の広島平和公園です。」

第29回定例学習会報告「原発と9条」

小山剛司(事務局)

9月24日(土) 午前10時から、中央公民館3階のA会議室でおこなった。参加者11名。

原発の原料はウランで、その核分裂反応でエネルギーが得られるが、放射線を放出する死の灰も生成する。この死の灰は処理する方法がないことが原発の最大の問題である。死の灰は処理できずにどんどんたまっている状態である。放射線を放出しなくなるのに何万年とかかる。原発は、まさにトイレのないマンションとおなじである。また、原発が立地している場所には活断層が多く、大地震の可能性が高く、福島原発のような事故は起こりうる。原発は安全だという神話は、原発建設の利益や利権にむらがる企業や地方自治体、マスコミ、国が作り出した幻想である。

会場からは、原発のことをよく知っている人がもっと多くの人に知らしていく義務があるとの指摘があった。



活動報告

終戦記念日8月15日（月）の宣伝活動

17:00～18:00 平塚駅北口におけるビラ配布及び賛同署名運動を実施したところ、10名の方々に参加いただき、署名35筆、450部のビラを配布いたしました。ご協力どうもありがとうございました。

意見

密約は国民に対する裏切り行為

事務局長 大谷 潔

最近、米国政府との密約が何件か明らかになった。

土地原状回復費用の肩代わり

一つは沖縄返還時に米国が支払うはずであった土地原状回復費用400万ドルを日本政府が肩代わりして払うという密約があったという情報を毎日新聞記者がつかんだが、外務省スキャンダルとして騒がれた結果、密約問題は深く追及されずに終わった。2009年鳩山内閣の岡田外相の指示により、外務省内で調査が行われたところ、当該密約の存在が明らかになった。



核兵器持ち込み事前協議なし

次に、我が国の非核三原則の下、日本への核兵器持ち込みは事前協議の対象となるという日米間の合意があったが、これまで事前協議なしに米軍が核兵器を日本国内に持ち込んでいるという疑惑及び米国関係者の証言が相次いでいた。2009年鳩山内閣の岡田外相の指示による外務省の調査で、やはり上記密約の存在が明らかになった。米国側は、寄港、飛来等による一時的な存在は、「持ち込み」に該当しないとの解釈をとっていたが、日本政府もその解釈の違いに気付きながら、国民には嘘の説明をしていた。

刑事裁判権の放棄

さらに、1953年日本政府は米兵の日本国内での犯罪について、重要な案件以外は刑事裁判権を放棄するという密約を行った。法務省は、全国の検察庁に対して、「実質的に重要と認められる事件のみ裁判権を行使する」よう通達を出した。この件についても、2010年鳩山内閣の岡田外相の指示で行われた調査の結果、密約の存在が明らかになった。

政権交代の効用と課題

このように、自民党の長期政権下では隠されていた密約が民主党政権になった途端、明らかになった。これは政権交代の効用である。日本国民が支払う税金から収入を得ている公務員が、日本国民の利益を図るのではなく、米国の利益のために仕事をしてきたことになる。これは、政府要職者の行為に対して、国会を通じた国民の民主的コントロールが及んでいなかったことを意味する。ときどき政権交代をして、過去の政権のドブさらいをすることも必要であろう。

「戦車」と「戦争」

東海道を西から東に地響きと土煙を上げて何両もの戦車が通り抜け、その轟音に驚いて大勢の人が家から飛び出して、皆唾然とした様子で凄まじい光景を見つめていました。戦車が通り去って私の家族もため息をつきながら家に入りました。幼子は半ベソをかき、母にしがみ付いていました。回転するキャタピラー、突き出た大砲、幼子の目には今から戦争が起こるように思えて、それは恐ろしい光景でした。「戦争が来るの？」幼子は母に聞きました。母は答えました。「大丈夫、戦争は来ないよ、もう戦争はしない、て日本は約束したから啦」。母の言葉に、戦争は来ないと知り、安心したものの、後にも先にも「戦車」を見たのはあの時だけでしたが、今もって忘れられない出来事でした。



キューバ革命と核戦争の危機

そして時は流れて、小学校の高学年になった頃、キューバ革命が起こりました。当時は米ソの対立が激しく両国の間で頻繁に核実験が行われた時代でした。その最中のキューバ革命です。アメリカとキューバの関係は一触即発の危険な状態でした。放課後の子供たちの話題も「戦争になったらどうしよう、原爆が落とされたらどうしよう、」当時の子供達は幼いながらも核戦争の恐ろしさを想像しながら、心の底で身震いしていたのです。「世界大戦争」という映画が東宝で作られ放映されたのもこの頃でした。核兵器に頼る東西大国の愚かさを描きつつ、ちょっとした不注意から核ミサイルが発射され、その後はドミノ式に核ミサイルが世界中に打ち込まれて世界が全滅してしまうパニック映画でしたが、時代を反映した作品でした。この後間もなく六十年安保闘争に突入するのですが、七十年安保闘争世代に当たる当時の小学生は、キューバ革命に再び「戦争、来るの？」と問いかけていました。

今後の活動予定

- 宣伝活動** 11月3日(月)文化の日(憲法公布の日) 13:30-14:30 平塚駅北口。
ビラ配布、署名運動。是非ご協力をお願いします。
- 11月例会** : 11月5日(土) 午前10時~12時
平塚市市民活動センター研修室(JR平塚駅南口 J Aビル TEL 0463-21-7517)
- 第30回定例学習会『わが憲法を次世代へつなぐために』** 講師: 加藤俊光(事務局)
日時 11月26日(土) 午前10時~12時、場所 中央公民館3階A会議室
次世代を生きる人たちに確実に憲法の理念をつなげるために、今を生きる私たちは何をしなければならないのか、皆さん一緒に考えてみませんか。
- 12月例会** : 12月3日(土)例会 午前10時~12時 中央公民館3階C会議室
- 新年会** : 2012年1月14日(土)12時~14時、平塚YWCAにて、会費1,000円。